

第5回高等学校韓国語教育セミナー

2007年11月3日(土)

- 1.セミナー開会・主催者あいさつ 駐日韓国文化院長
- 2.韓国語授業において捨てるもの拾うもの:セッション1
- 3.韓国語授業において捨てるもの拾うもの:セッション2
- 4.福島県における韓国語教育とふくかねっとの活動
教育委員会教育長 野地陽一氏
ふくかねっと理事長 鄭玄実氏



セッション3 報告「福島における韓国語教育とふくかねっとの活動」

福島県教育委員会教育長 野地陽一
ふくかねっと理事長 鄭玄実

福島県の韓国語教育について

福島県教育委員会教育長 野地陽一

海外への高校修学旅行先は半数近くが韓国。
しかし福島県内では韓国語授業を行っているのは
2校にとどまる。
日韓の相互交流が課題。

福島県では、あさか開成高校と福島北高校の2校で韓国語授業を行なっている。2校合計で、今年約50名の生徒が韓国語を学んでいる。高校90校中の2校である。英語以外の外国語、すなわちフランス語、スペイン語、中国語、韓国語は合わせて約500名が学んでいる。

外国に修学旅行に出かけた学校11校中5校が韓国であった。しかし、残念ながら訪問した先で韓国の高校生と交流するところまではできていない。

先日、福島県知事が韓国を訪問した。福島・ソウル間の国際便利用促進が目的だ。

韓国から福島県に教育旅行で来るということはない。相互交流をいかにさかんにするかが課題である。

福島県にはほかユニークな取り組みを行っている高校がある。太平洋に面した富岡町にある富



岡高校である。富岡高校はスポーツを通じて国際的にも通用する人材を育成するため日本サッカー協会等と連携し開校した。

韓国人観光客の増加によって

韓国語教育の必要性が高まっている

鄭玄実 7年前に福島に来たがそのとき高校で韓国語を教える学校はなかった。今後福島で韓国語を取り入れられる可能性、展望を教えていただきたい。

教育長 高校には単位制高校があって、本人の希望に沿ってカリキュラムを選ばせることをやっている。単位制の中で韓国語授業を設けることに取り組むことが早道だと考える。人材不足の中で、ふくかんねっとからサポートがいただけることもポイントである。

鄭玄実 先日矢吹町の光南高校からふくかんねっとに依頼があった。矢吹町には韓国からゴルフ客がたくさん来る。韓国に対する理解、意識を高めなくてはいけないということで、高校で韓国語を教える必要があるという考えにまで至った。教える先生、テキスト、カリキュラムについて相談があった。ゴルフ客が毎年7万人くらい来る、しかも毎年5割ずつ増えている状況の中で各旅館等も韓国からの客に対する対応を考えなくてはならなくなってきている。福島の高校の中で韓国語を教える必要性が高まっている。

教育長 実は福島県から韓国に行く日本人より、韓国から福島県にゴルフや温泉に来る韓国人の方が多い。今話に出た矢吹町はじめ県内には韓国企業、韓国系企業が所有するゴルフ場がかなりの数あり、韓国からたくさんの客が来ている。一般県民にも韓国語の教育需要が高まっている。旅館・ホテルでも従業員に韓国語を学ばせるといった状況が出てきている。

ふくかんねっとの活動について

NPO法人ふくかんねっと理事長 鄭玄実

行き来する交流を積極的にすべき

今年、韓国の安城市から選ばれた高校生20人が福島を訪ねてきた。そのときふくかんねっとがコーディネーターをし、福島の桜の聖母高校、郡山のあさか開成高校の生徒と交流をした。この後、あさか開成高校の生徒6名が安城の高校へ行きホームステイを行った。顔をあわせながらの交流をもっと積極的にすべきだと思っている。

私が福島に来た7年前、福島大学には韓国語科はないし、韓国語という科目もない、非常勤もない状況だった。公民館の市民講座やいろいろなスクールにも韓国語がなかった。韓国食材を買うことも困難だった。こんなに韓国と遠い県があるのかと思った。

それから何とか韓国語講座をと考えて開いたら、2クラス集まった。「韓流ブーム」が起こる前だった。意外と反響が大きかった。韓国語を学びに来た人をネットワーク化してというところから6年前に「ふくかねっと」がはじまった。その後、集まった人たちが国際交流のイベントに参加するようになった。

ふくかねっとでもっとも力を入れているのが韓国語講座である。単なる韓国語講座ではなく、学ぶ人が集まって仲間意識を高める、輪がどんどんひろがっていくことが大事だと考えている。

韓国語講師の人材が不足

しかし、今難関にぶつかっている。1つは韓国語を教える先生の問題である。講師2名がふくかねっとから育ち、現在2つの高校で韓国語を教え活躍している。夏休みや春休みに、韓国に出かけて集中講座を受けたり、韓国の大学院で学ぶ会員もいる。現在こどもクラスも含め5人の先生がふくかねっとで韓国語を教えている。

しかし福島で韓国語を教えるのはどうして難しいのか。ひとつは人材不足である。福島大学にいる韓国からの留学生6名の中に韓国語を教えてくれそうな女子学生が1人いたが、今年4年生になり韓国に帰ってしまうことになった。そのほか福島に暮らしている韓国人はかなりいるが、主婦として家庭の中に入り、名前も変わっているので捜し出すのが大変である。もし捜し出せても、日本語が乏しい。韓国人であれば誰でも韓国語を教えることができるということではない。どうしたら人材育成できるのかが問題である。

韓国語料理講座で関心を

もう一つは、今年春から韓国語講座に集まる人が激減したことである。あるスクールでテレビ、新聞、雑誌を使って募集したが4人にも至らなかった。どうすれば韓国語を学ぶ人を増やし、韓国との交流、活動を支えていくかということであるが、常に福島で韓国の風を吹かせ、韓国に対する興味を引き起こすことが効果的であると考え。その中でもっとも手っ取り早いのが料理講座である。料理から韓国文化、韓国人に関心を広げ、異なる文化を体験することを通して韓国語に興味を持ってもらうことがもっともふさわしい。

数が多くなればよいとは考えないが、毎週集まっているみなさんにもっと韓国のことを知ってもらったり、韓国の文化に触れる機会をもっと持ち、仲間同士がつながって韓国に対する興味を高め

ることに力を注いでいきたい。

ふくかねつとを今後どうやって存続させるのかも深刻な問題である。誰かが常駐する態勢を作っていないと、県や市等から送られてくる膨大な資料を処理できない。ボランティアという考え方を徹底しないといけない。運営費もかかる。深刻な状況を乗り越えるためにさまざまな事業を行っている。その一つがキムチ事業である。今回韓国の大学生19人によるインターンシップ事業も試験的に行ってみた。旅館、事業所、会社でインターンシップをしながら福島のさまざまなイベントに参加し交流することで活気をもたらした。

教育長 ふくかねつとがかかえている問題はNPO法人が共通にかかえている問題である。ふくかねつとは、鄭玄実さんの人柄とバイタリティーとキムチのおいしさが知られている。インターンシップ受け入れについても、これまでの鄭玄実さんの活動のおかげであり、それを評価する人がいたからできたのだと思う。

鄭玄実 ふくかねつとは会員15人くらいからはじまり、今200人になった。この5年間、さまざまなスタッフがボランティアとして意欲的に参加した。主婦がたくさん集まり支えている。

こののち、ふくかねつと会員であり非常勤講師としてあさか開成高校で教えている太田ひろみさんと福島北高校で教えている河本菜穂子さんが韓国語授業を行う上での苦労等を語った。

太田ひろみ 私は、今日の天気は、何時に起きましたか、食事をしましたか、寒いですかということから授業を始めている。50分授業のうち、生徒に最低3回は答えるようにさせている。



河本菜穂子 いかに授業で私に興味を引き付けるのが課題。寝ている子がいれば起こしながら授業を行っている。韓国からインターンシップの学生が来たとき生徒ははとも目を輝かせて授業に臨んだ。生徒は何か通じるととてもうれしさを感じる。韓国、韓国人に対する興味を引き出すことが大切だと思う。生徒が少しでも何かしゃべればいいなという気持ちで行っている。

